

「係り受け解析」の授業

リーディングスキルの6つの視点の中でも「係り受け解析」と「照応解決」が最も重要であり、毎時間の授業の中で意識していくべきものであることがわかってきました。「係り受け解析」とは文の構造（主語・述語・目的語など）を把握する力です。

生徒は、主語や述語について小学校から学習してきました。中学校に入ると、また改めてレベルを上げて学習することになります。各教科の教科書の内容を理解するためには、文の構造を把握しなければなりません。そのためには、主語や述語について直接学習する時間も必要です。その役目を担うのは、国語科の授業です。

先日、国語科の研究授業が行われました。主語と述語の学習です。

〈本時のねらい〉さまざまな文の中から「主語」「述語」を見つけ出す活動を通して、「主語」と「述語」の働きや文の中での見つけ方を理解し、言語化することができる。

〈学習課題〉「主語」「述語」はどういう言葉か。また、見つけ方のポイントはどんなところか。

〈基本的な問題〉

○ 庭の さくらが 大変 きれいだ。

このような問題は、主語も述語も見つけることができていました。

△ その コンクールには 参加賞が ない。

この問題になると、つまづく生徒が出てきました。「コンクールには」を主語にしてしまうのです。「～は」となっているからだと思われれます。ここまでは小学校の復習です。

〈応用的な問題〉

× そこには 飲み物だけ あった。

「そこには」を主語にする生徒がたくさんいました。ここからが、中学校の学習です。まず述語を見つけ、そうするのは何（誰）かを考えることを確認しました。「は」や「が」に置き換えられるかどうかで判断するという意見も出ました。「～は」「～が」の形をとらない主語があることを学びました。

△ あれも 母から もらった 着物だ。

「もらった」を主語にしてしまう生徒がいました。「～も」の形もあることを学びました。

△ ぞうは 鼻が 長い。

最初は「ぞうは」を主語にしてしまう生徒がいましたが、ちょっと考えてから「ぞうが」になおす生徒もいました。どうやら、その文の最初に出てきた「～は」「～が」を主語にしてしまうようです。

× もっと 速く 走れ。

ほぼ全員ができませんでした。「走れ」が述語ですが、主語はないからです。主語がない文があることを学びました。

〈まとめ〉主語と述語を見つけるポイントをまとめました。主語、述語はどういう言葉なのかの言葉とは、「文節」であることを「そこ大事です」と確認していました。学んだことを教科書で確認し、線を引かせていました。

《ぜひ若い先生方に見てもらいたいわかりやすい授業でした》

○ 「みんなで読んでみましょう」と学習課題を声に出して読んでいました。

○ 主語や述語を見つけても、説明するのは簡単ではないことに気づかせ、課題意識を持たせていました。

○ 「小学生にわかりやすく教えるとしたらどうするか」と投げかけ、言語化できるよう導いていました。

○ 課題に対して自分で考える時間を「予想タイム」としてたっぷりと取っていました。終わらせるときには、「ペンを置いてください」と指示していました。

○ 詰め込みすぎず、発問や指示を繰り返さず、「ええと」「あのう」などの不要な言葉もないため、計画通りに授業が進みました。

○ 生徒から何度も「確かに」とか「ああ」などと、新たな気づきや学びにつながる反応がありました。

○ 振り返りでは、新たにわかったことを「びっくりしたこと」と表現し、学びを実感させていました。

○ 文字の大きさが適切で、とても見やすい板書でした。